

## ChikyuOman2017

### ～第1期オマーン掘削プロジェクトちきゅう船上記載～

○道林克禎（静岡大学）、高澤栄一（新潟大学）、Peter Kelemen（コロンビア大学）、Damon Teagle（サウサンプトン大学）、Michelle Harris（ポリマウス大学）、The Oman Drilling Project Phase 1 Science Party

### Oman Drilling Project ChikyuOman2017 Overview

○ Michibayashi, K. (Shizuoka University), Takazawa, E. (Niigata University), Peter Kelemen (Columbia University), Damon Teagle (Southampton University), Michelle Harris (Polymous University), The Oman Drilling Project Phase 1 Science Party

オマーン掘削プロジェクトが2016年12月から開始され、2017年3月末までに、オマーンオフィオライトの6カ所のサイトで、計4孔のコア掘削と2孔のロータリー掘削が実施された。掘削されたコアは地球深部探査船「ちきゅう」に運ばれ、2017年7月15日から9月15日にかけて船上においてコアの記載と分析がなされた。前半の1ヶ月（Leg 1）と後半の1ヶ月（Leg 2）に分けられ、乗船科学者も一部を除き、大部分が交代した。

Leg 1 で記載を行なったコアはオマーンオフィオライトの下部～中部地殻に相当する2孔から掘削されたもので、それぞれ layered gabbro (Hole GT1A), layered gabbro と foliated gabbro およびそれらの遷移部 (Hole GT2A) であり、コアの全長は各約400mに達した。

Leg 2 で記載を行なったコアはオマーンオフィオライトの上部地殻を構成する複合岩脈群とガブロ層の境界(Hole GT3A)とオフィオライト基底で炭酸塩岩化作用が卓越した地点(Hole BT1B)から掘削された、それぞれ300mと400mである。

船上でのコア観察、記載、分析は、6つの専門チーム (Igneous Petrology, Alteration, Structural geology, Geochemistry, Physical Properties, Paleomagnetism) に分かれた延べ68人の乗船研究者によって行われた。うち日本から参加した乗船研究者はシニア研究者が14名、大学院生が6名、学部生1名であった。本講演では、ちきゅう船上で実施された掘削コア記載の概要を紹介する。

